

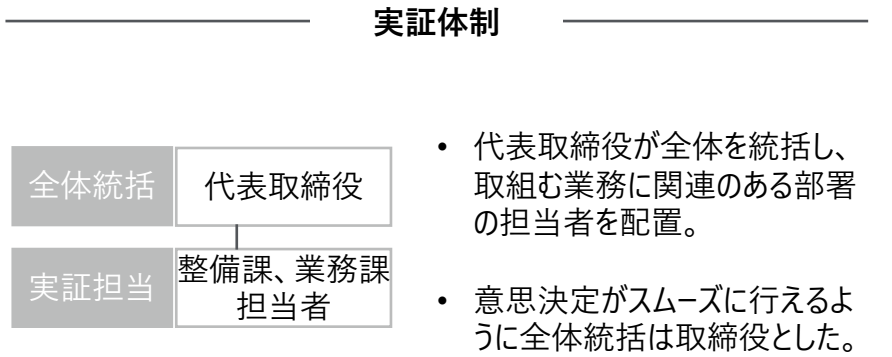
有限会社みなみ産業

紙媒体・口頭連絡で行っていた配車予定をデータとして残すことで伝え漏れを防ぎ、過去のデータを記憶以外で管理できるようにする

有限会社みなみ産業 概要・実証計画【1/2】

企業概要	
企業名	有限会社 みなみ産業 
所在地	愛知県豊田市
代表者	安藤まり子
資本金	750万円
従業員数	125人（派遣社員含む）
事業内容	自動車部品の運搬、自動車部品の出荷、一時保管 電子部品の運搬、鋼材の運搬 産業廃棄物収集運搬（愛知県、名古屋市、豊田市、長野県、岐阜県）
概要	「安全・確実・迅速」を基本理念として、様々な種類のトラックを用意して顧客のニーズに応えられるように頑張っています。 - 創業以来豊田市という土地柄、自動車部品を主に運搬しています。 - ドライバーコンテストへの参加をしており過去には弊社社員が全国大会に出場したこともあります。 

- デジタル化推進の背景
- ほぼルートの決まった定期配送ですが、単発の運搬依頼が来た時にドライバーやトラックのスケジュールを共有できるような管理をしていなかった。欠勤でドライバーが変更になったときなど配車担当者と運行管理者間の連絡ミスで変更内容が伝わっておらず、現場が混乱するということがあった。
 - ドライバー変更の情報をアプリで管理して関係部署で見られるようにすることで確認に掛かる時間・連絡の手間を防ぎ、その他の業務を止めることなく円滑に進められないかという課題があった。
 - また過去のドライバー変更のデータを蓄積することで対応できるドライバーをデータとして残し、配車の準備にも活用できたらと思う。
 - 車両のスケジュールもデータ化し車検や修理の予定も社内で共有したい。



Kintoneを使ってデータを残していく

有限会社みなみ産業 概要・実証計画【2/2】

最終的にデジタル化で達成したいこと

- データに基づいて計画的に効率性を重視した配車計画を実現する。

今回実証で実施したいこと

- 車両情報の一元管理
- 定期便のデータベースの構築
- 定期便の運転手の変更を点呼室でリアルタイムに確認

目標とする成果

- 社内で紐づいていなかったデータを紐づけ、管理の省力化を図る。
- 言った、渡したなどの伝達ミスをなくす。
- 属人化しているがゆえに、担当者への問い合わせが多くなっているため、担当者の情報の見える化を行うことで担当者の負担軽減を図る。

実証で利用するツール

導入ツール	kintone（サイボウズ株式会社） 
導入費用	ライトコース：月額 1,000円～ スタンダードコース：月額1,800円～ 最低契約ユーザー数：10ユーザー ※2025年1月末現在
ツールの説明	➤ 業務アプリが作れるサイボウズ株式会社のノーコード・ローコードツール ➤ 顧客・案件管理、企業間のやり取り、ワークフロー、日報・報告書など幅広い業務のシステム化や効率化を実現 ➤ プログラミングの知識がなくても、ドラッグ・アンド・ドロップで業務アプリを作成することができる ➤ 導入先は、IT部門より非IT部門の方が多い

【使用理由】

- 自社の業務に合わせた複数のアプリを作成することができ、汎用性が高いため選定した。
- ITの専門担当がいなくても、作成できる容易性に魅力を感じ、選定した。

紙ベースで用意されているデータとExcel等で残しているデータをその場かぎりものにしないで 社内で共有していく方法を模索していく

有限会社みなみ産業実証実施結果【1/3】

解決を目指した具体的な課題

車両情報の一元管理

- 車両の情報として車検日・型番などの基本情報、修理情報・事故状況などのメンテナンスデータがそれぞれ存在しており、まとめて見られるデータがない。

定期便のデータベースの構築

- 状況が変わったり適性を見た場合にドライバーの変更をすることもあるがその経緯を目視で確認できるデータが存在しなかった。
- 定期便に使用しているトラックの一覧も全員で共有できるデータがなかった。

定期便の運転手の変更を点呼室でもリアルタイムで確認

- ドライバー変更があったときに連絡不足があり、休暇を取っているドライバーに連絡を取ってしまうことがあったため、リアルタイムに変更点を伝える必要があった。

課題解決に向けた具体的な取組内容

現場データの見える化

- Excel等で作成していた社員データ、車両データをkintoneを使い管理。今まで担当者の経験と記憶に頼っていた配車情報をkintoneでアプリを作成し管理することで社内でデータを共有できないか検討。
- スマホからもkintoneにログインできるので、社外に出ることが多い配車担当者も連絡を受けたその場でアプリに入力できるため、車両担当者に空いている車両を確認することなく配車を組めるようにする。
- 更新されるデータを都度確認してもらうことで、点呼室への連絡ミスを防ぐ。

手書きで残していたものをkintoneアプリにデータとして入力し各部署で必要な時に見られるようにする

有限会社みなみ産業 実証実施結果【2/3】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

【実証時に感じた壁】

アプリの作成方法の習得

- kintoneの操作自体が初めての従業員が多く、ログインの仕方から操作を教える必要があった。
- ITリテラシーの低い従業員もいるため、kintone操作を問題なくミスなく出来るかの心配があった。
- 口頭・書面連絡をするのが普通であったのでパソコンでkintoneを開きデータを入力する、データを確認するという習慣をつけることが難しいと思った。

【克服のためのアクション】

- とにかく現在はデータを蓄積していき、後々そのデータを分析して業務に生かすという目標をもって慣れてもらうことにした。
- ITに強みのある従業員にkintoneの操作を習得してもらい、他の従業員へ展開を図った。

取組に要した工数

全体統括	代表取締役	実証担当からの報告に1時間／月
実証担当	整備課、業務課 担当者	実証担当者との打合せ3時間／月 実証担当者での改善案の検討実行に5時間／月

取組の成果

共有したいデータが可視化できた

- 口頭連絡だけでなく都度データとして残すことで各担当の記憶に残っていた情報をアプリでリアルタイムで確認できるようになった。

データを蓄積することができた

- 変更の情報はその時限りでデータとして残っていなかった。データを残すことで今後いろいろな活用の可能性を検討できた。

データを見える化できたら後はデータを分析し日々の業務に生かしていくという意識を社内全体で高めていきたい

有限会社みなみ産業 実証実施結果【3/3】

今後の課題・目標

(デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

事故情報登録アプリの作成

- 事故情報はドライバーを基にExcelで報告書なども添付して保存はしているが、過去のデータなどをドライバー車両ごとにすぐに一覧で出せるようになっていないため過去データの検索に時間を費やしている。必要なデータをすぐに検索できるアプリを作成していきたい。

特車の配車アプリの作成

- 定期便はドライバーと使用車両がほぼ決まっているが、定期でない便は依頼内容によって使用車両がまちまちである。このため車両の空き状況を把握しておく必要がある。誰が見てもわかるようにするため依頼内容と使用車両のデータを蓄積していくことが必要と感じている。
- 仕事の依頼を受け配車する担当者が車両の空き状況をすぐに確認できるようにしていけたら連絡時間のロスなどが減っていくと思う。

- 今までデジタルに関するシステムの構築は外部に委託していたので、そのシステムのデータを使って新たに何かをしたいと思ったときに委託先に再度システムを準備してもらうなど費用と時間がかかっていた。この事業に参加してkintoneを紹介してもらって、大規模にシステムを構築しなくても自分たちの必要なデータをニーズに合わせて利用していくことが可能性として見えてきた。
- この実証事業に参加してデジタル化に対し拒絶する社員だけではないことも分かった。意見を出し合い自分たちで自分たちのものを作り出すという点ではデジタルもアナログも変わらないのだと思う。
- 何よりもまずやってみるということは大切だと思いました。kintoneという比較的費用が抑えられるツールであったこともやってみるという方向に持って行けたと思う。